

1

3年間の計画

| | 目標 | 平成29年度(2017年度) | 平成30年度(2018年度) | 平成31年度(2019年度) |
|---------------|------------------------------------|--|---|---|
| 中学校ブロック保幼小中連携 | ルールを守り、努力を惜しまない子どもを育てる。 友達と協力し、 | <ul style="list-style-type: none"> ・連携者会議の開催 ・中学校ブロック合同授業研(12/6 中学校ブロック連携の日) ★ブロック内の幼小中の研究授業に積極的に参加する ・連携教員による取組み ★出前授業 ・天中ブロックスタンダードの検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・H29の取組みの継続 ・中学校ブロック合同授業研の開催 ・連携カリキュラムの再確認 ・連携教員による取組み ★出前授業 ★英語授業の引継ぎ ・天中ブロックスタンダードの作成準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・H30の取組みの継続 ・中学校ブロック合同授業研の開催 ・連携カリキュラムの再確認 ・連携教員による取組み ★出前授業 ★外国語授業づくり研究会の開催 ・天中ブロックスタンダードの実施 |
| 確かな学力の育成 | 基礎学力の定着 | <ul style="list-style-type: none"> ・発問や教材の工夫。 ・書くことを重視。 ・話し合い活動の充実。 ・人の話しを目で聴く態度を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業のふりかえりの徹底。 ・メモを取る力を育てる。 ・能動的学習の実施。 ・教師間での授業参観・授業交流の充実。 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業の充実。 ・アクティブラーニングの定着。 ・見通しを持たせ、全ての生徒が授業参加できる。 |
| 豊かな人間性を育む | 個性を尊重して行動できる生徒集団の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを大切にし、互いに高め合い人間としての生き方や命の尊さについて深く考える集団を育てる。 ・一人ひとりの個性を認め合う集団を育成し、寛容と思いやりの心を育てる。 ・自分や仲間を大切にし、ともに成長できる学年集団を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを大切にし、互いに高め合い人間としての生き方や命の尊さについて深く考える集団を高める。 ・一人ひとりの個性を認め合う集団を育成し、寛容と思いやりの心を高める。 ・自分や仲間を大切にし、ともに成長できる学年集団を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを大切にし、互いに高め合い人間としての生き方や命の尊さについて深く考える集団を確立する。 ・一人ひとりの個性を認め合う集団を育成し、寛容と思いやりの心を確立する。 ・自分や仲間を大切にし、ともに成長できる学年集団を確立する。 |
| 健康・体力の増進 | 体力づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な活動 ・活動的で協同的な取組み ・集団行動の取組みの模索・検討 ・体力づくりの重要性の啓発 ・補強運動の充実化 ・教師の指導力向上 ・運動機会の確保 ・体育的行事の模索・検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・H29年度の取組みの継続 ・集団行動の取組みの充実化 ・補強運動の充実化 ・運動機会の確保 ・体育的行事の充実化 | <ul style="list-style-type: none"> ・H30年度の取組みの継続 ・集団行動の充実化 ・継続した体力作り(補強運動の充実化) ・運動機会の確保 ・体育的行事の充実化 |
| 支援教育の充実 | | | | |

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
おおむね良好な結果であった。
- ②書くこと
おおむね良好な結果であった。
- ③読むこと
おおむね良好な結果であった。
- ④言語事項
おおむね良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式
おおむね良好な結果であった。
- ②短答式
おおむね良好な結果であった。
- ③記述式
出題なし。

(無解答率)

おおむね良好な結果であった。

(その他)

国語B

(領域ごと)

- ①話すこと・聞くこと
おおむね良好な結果であった。
- ②書くこと
おおむね良好な結果であった。
- ③読むこと
おおむね良好な結果であった。
- ④言語事項
良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式
おおむね良好な結果であった。
- ②短答式
出題なし。
- ③記述式
おおむね良好な結果であった。

(無解答率)

おおむね良好な結果であった。

(その他)

分析

国語A

話す・聞く、書く、読むの観点において、全体的に全国・大阪府よりも正答率が高い。どの観点においても前向きに授業に取り組む中で、基礎的な学力が身につけてきているように感じる。しかし、言語の観点においては全国・大阪府よりも正答率が下回っている問題もあり、語彙力を高めることが今後の課題である。

国語B

記述式の問題の無解答率が全国・大阪府よりも下回っているものもあり、日々の授業での取組みを通して、書くことに対する抵抗や苦手意識は低くなってきているように感じる。

〇●数学●〇

数学A

(領域ごと)

①数と式

おおむね良好な結果であった。

②図形

おおむね良好な結果であった。

③関数

良好な結果であった。

④資料の活用

良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

おおむね良好な結果であった。

②短答式

おおむね良好な結果であった。

③記述式

出題なし。

(無解答率)

おおむね良好な結果であった。

(その他)

数学B

(領域ごと)

①数と式

おおむね良好な結果であった。

②図形

良好な結果であった。

③関数

おおむね良好な結果であった。

④資料の活用

おおむね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

おおむね良好な結果であった。

②短答式

おおむね良好な結果であった。

③記述式

おおむね良好な結果であった。

(無解答率)

おおむね良好な結果であった。

(その他)

分析

数学A

知識・理解と数学的スキルについては、日々の授業の取組みの中で基礎的な学力が培われていると思う。全体的に全国・大阪府よりも正答率が高い。このまま、日々の取組みを大事にしていきたい。

数学B

数学的な見方や考え方の問題は、比較的できていた。全体的に全国・大阪府よりも上回っているものが多かった。理由を説明する問題に対しては、全国・大阪府よりも正答率が下回っていた。自分の言葉で説明するという部分に対しては課題が残ると考えられる。

○●理科●○

(領域ごと)

- ①物理的領域
おおむね良好な結果であった。
- ②化学的領域
おおむね良好な結果であった。
- ③生物的領域
おおむね良好な結果であった。
- ④地学的領域
おおむね良好な結果であった。

(問題形式)

- ①選択式
おおむね良好な結果であった。
- ②短答式
おおむね良好な結果であった。
- ③記述式
おおむね良好な結果であった。

(無解答率)

おおむね良好な結果であった。

(その他)

分析

全ての領域において、日々実験を行い知識力・技術力・思考力の定着を行っている成果もあり、正答率が高かった。また、各分野を自分たちの身の回りの生活と結び付け、興味を引くようにしている。今後もこの調子で学習させていきたい。

○●経年比較●○

【全体的な傾向についての分析】

教科全体としては、無解答率は昨年度と比較しても大幅に下がり、全国平均よりも下の水準になった。また、平均正答率に関しても、昨年度と違い、全国比に対して各教科とも良好な結果となった。

中でも、国・数では、どの観点においても前向きに授業に取り組む中で、基礎的な学力が身につけてきているように感じる。しかし、言語の観点においては全国・大阪府よりも正答率が下回っている問題もあり、自分の言葉で説明するという部分に対しては課題が残る。語彙力向上のための手立てが必要と感じる。

【学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析】

学力高位層においては過去11年間で最も高い結果になった。それに伴ってか、中間層が減少している。

学力低位層については、昨年度より減少し、全国比を下回る結果になった。引き続き、テスト前の学習会への参加率の向上や工夫、日常の授業や課題を大切にさせて低位層や中間層の底上げが必要である。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

○学習目標カード、pointカード、振り返りカード

成果

- ・各授業の時間内の到達点を明確にすることで生徒が考えやすくなり、意欲向上にもつながる。
- ・ポイントを提示することで、授業途中にでも大切な部分を思い出しやすい。
- ・振り返りをするすることで、1時間ごとの学んだ内容を思い返すことができ、定着率の向上に繋がる。

○「チャイムと同時に授業開始・終了」を徹底する。

教師が教室でチャイムを聴くと同時に授業を開始する。その一方で、チャイムと同時に授業を終わる。

成果

- ・授業の開始・終了をはっきりさせてメリハリをつけることができる。

○朝読に対する指導

「朝の読書タイム」において以下の原則を守らせる。

- ① 全校体制でMT前の10分間、全員で読む(担任も)
- ② 毎日読む(習慣をつける)
- ③ 好きな本を読む

成果

- ・朝の読書の続きをそれ以外の時間に読むようになった。
- ・遅刻や欠席の生徒の数が減少する。
- ・朝の1時限目の授業が静かな雰囲気落ち着いてスタートできる。

○学習会の実施

定期考査毎の事前に実施。

成果

- ・少人数での取組みになっているため、普段質問できない生徒も積極的に聞くことができ、学習意欲・理解力向上につながっている。

○学習の手引きの活用

年度当初に各教科より配布。

成果

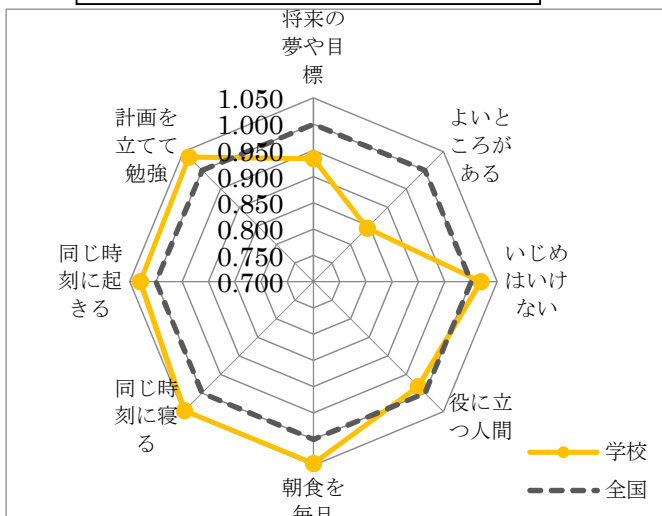
- ・授業の受け方、評価の仕方、家庭学習の仕方を提示することで各教科の学習に見通しが持て、学習意欲の定着につながっている。

今後の課題

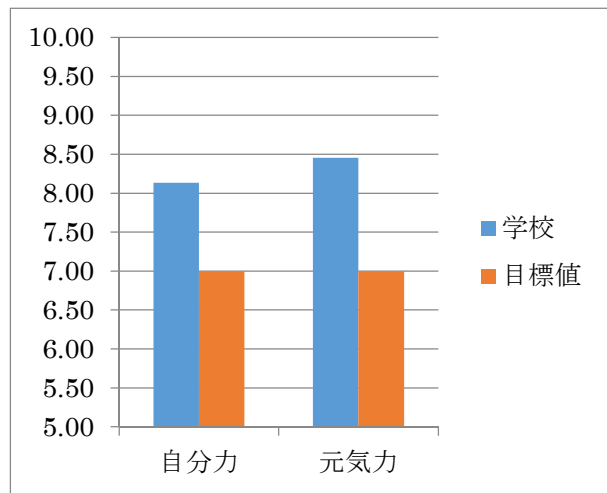
- 主体的・対話的な学習活動に向けて…具体的な取組みを。
- より効果的な小中連携…形式的なものではなく中身のあるものを。
- 自主的・自発的な家庭学習の定着…学校からより発信できれば。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

【自分力】(規範意識を持ち、自分をコントロールできる力)

→項目ごとに検証してみると…、中でも、“いじめは、どんな理由があってもいけない”の結果が目標値を上回っていることから、仲間を大切にできるまたはしようとする、心ある生徒が増えてきていることがわかった。その一方で、“よいところがある”が目標値を大きく下回っており、自己肯定感が低い、もしくは控えめな生徒が多いように感じる。

【元気力】(規則正しい生活を送る力)

→“毎日、同じくらいの時刻に寝る・起きる” “朝食を毎日食べている”は、全国比を大きく上回っており、基本的な生活習慣がきちり身につけている生徒が多い。ほとんどの生徒は、生活リズムが整い、健康的な生活を送れていることがわかった。

取組み

【ゆめ力】

→日常を只々漠然と過ごすのではなく、将来の夢や目標に向けて、今を全力でがんばり、少しずつ夢や目標に近づいているという自覚を持たせられるよう、様々な活動を通じて配慮していく。また、困難なことから逃げず、あらゆる活動を最後までやり遂げられるよう、生徒に寄り添っていく。

【自分力】

→日々の授業の中ではもちろん、様々な行事などの経験を経て、自分に自信を持てるよう、その機会を積極的に増やしていく必要がある。また、学級役員や教科係など自分の役割を自覚させ、行動を起こしていくことで、周りから認められる経験を数多く体験させる。また、自分の役割を果たすことで物事に取組む意欲的な力を育むとともに、自己肯定感を高めさせる。

【元気力】

→引き続き、保護者の協力の下、現状の維持・向上に努める。

【つながり力】

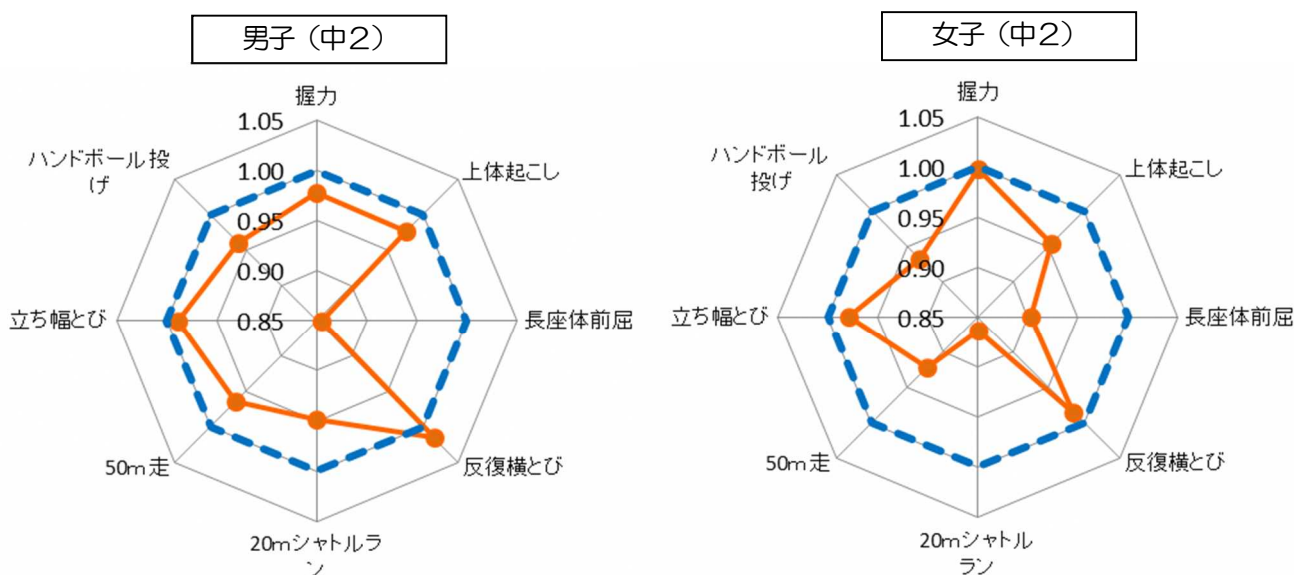
→日常の生活空間だけでなく、行事等を含め、クラス・学年・他の学年など、様々な集団の中での取組みを通じて、人とのつながり・結びつきの大切さを意識させる。人間力向上に努める。

【学び力】

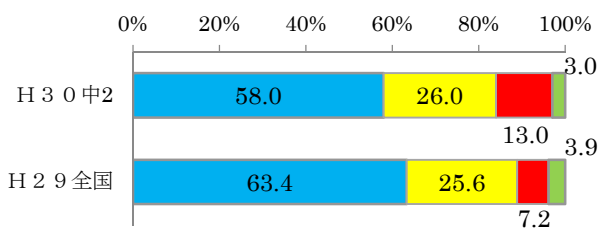
→引き続き、朝の読書により、静かな集中できる環境の中での1日のスタートを継続し、各教科においては、生徒の興味関心が高まるような授業を展開していくことで、確かな学力の定着を図る。また、先々の見通しを立てて、意欲的・計画的に学習を進めていけるよう必要な支援をしていく。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

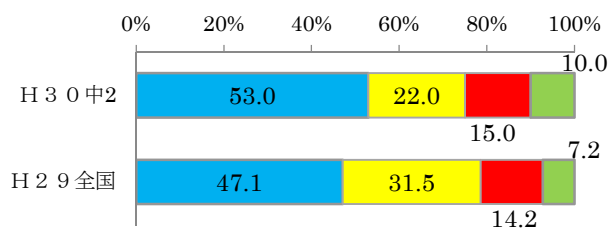
○●体力●○



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

男子は、ほとんどの種目において平均値を下回っている。特に長座体前屈が大きく下回っており柔軟性が低い。一方で反復横跳びや立ち幅跳びは全国の平均値に近く越えていることから瞬発力はある。

この結果から全体的に低いため、体力の向上を目標とした様々な運動に取り組んでいく必要があると考えられる。

女子は全国平均に近い種目と大きく下回っている種目の差が激しい。特に20m シャトルランと50m 走とハンドボール投げと長座体前屈が極端に全国平均を下回っている。

この結果から筋力や敏しょう性は高いが、持久力と巧ち性、柔軟性が低いため向上させる必要がある。また昨年度に比べると下がっている傾向にあることから、補強運動を充実させて向上させることが必要である。

取組み

男子においては、全体的な向上が求められることから準備運動や補強運動を充実させることで向上させると共に様々なスポーツを行うことで、いろいろな動きをさせる。また準備運動や補強運動を真面目に取り組ませる。そして身体的な成長とともに精神的にも中学2年生として良識ある行動が取れるように指導していく。そしてスポーツの楽しさを教えながら、体力の向上を目指していきたい。

女子においては、全体的に向上させていきたい。準備運動や補強運動を充実させると共に、ボールを扱いながら、持久力の向上をめざすなど楽しみながら様々なスポーツを行うことで、いろいろな動きをさせたい。